

精神疾患を抱える家族・当事者・関係機関のための機関誌

# SAGA 精連

2025/1

No. 162

発行 佐賀県精神保健福祉連合会

巻頭言

## 「SAGA2024 国スポ・全障スポを経験して」

佐賀県精神保健福祉連合会の会員の皆様には、日頃から精神障害のある方の社会復帰や社会参加に向け、様々な取組を行っていただき誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

昨年は、SAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が佐賀県で開催されました。「する。観る。支える。」すべての人が主役の大会で、参加された方には、それぞれの想いが残ったのではないのでしょうか。全障スポにも、多くのボランティアの方に参加いただきました。参加した方からは、「光や音に敏感な方がいらっしゃることを初めて知った。」「障害のある人もない人もみんな変わらない。」「手話通訳士を目指そうと思う。」など、多くの声をいただいています。今回の大会をきっかけとし、障害のある人へ、障害のない人へ、お互いの理解が進み、その輪が広がっていくことを願っています。私たちも、そうした動きをしっかりとサポートできればと思います。

12月には、佐賀県精神保健福祉大会「さがスマイルフェスタ in 鳥栖」が「スポーツでつながる人と人」をスローガンに開催されました。トークイベントでは、「疲れを感じたときはどうされるのですか?」との問いに、「心が疲れていると体の疲れもより強く感じられる。」「心身に影響をきたしたこともあったが、そういうときこそ練習をする。」「スポーツはメンタルには基本的にはいいことしかない。」といった言葉がありました。日々の生活や仕事でもいろんなことがあります。頭だけで考えずに、とりあえず、外に出て、歩いたり、運動を試してみようかと思っています。

また、今回の大会では、スポーツ体験会もあったので、多くの子どもたちが参加してくれました。全障スポの競技種目であったボッチャやフライングディスクなどを笑顔いっぱい楽しんでくれていました。子どもころから、自然な形で、障害者のある方も、障害のない方も、スポーツやイベントなどを通じ、一緒に触れ合う機会を増やしていくことができればと思っています。

人は、他の人の本当の気持ちを理解することは難しいと思いますが、自分ごととして、一所懸命に考えることや近いことを体験することはできると思います。お互いを理解し合うことで、気づきもあり、教えられることもあります。周りの人に一歩近づいて、そして、お互いが穏やかに、心地よく暮らせることができればと思います。そうした、みんなが支えあう佐賀らしい優しさのカタチ「さがスタイル」が広がっていったらと思います。

佐賀県健康福祉部長 井上 洋



この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金で発行しています。

# グラウンドゴルフ大会

10月1日(火)に小城公園自楽園にて第27回親睦グラウンドゴルフ大会を開催しました。小城市高齢障がい支援課 下村課長にご挨拶をいただき、始球式のあと団体戦と数年ぶりに個人戦を行いました。

うっすら日焼けしたほど暑さが残る日でしたが、広いグラウンドに思い切り「パーンッ！」とあちこちでボールを飛ばす音は、聞いていても爽快な気分になりました。

今回も開催にするにあたり、小城町グラウンドゴルフ協会の井手会長はじめ役員の方には快くご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(この大会は佐賀銀行社会福祉基金の助成金で開催しています)

## ★ 団体戦

1位 あげぼのセンター A	スコア 70
2位 TOKIO(佐賀みょうが塾)	スコア 91
3位 さくらんぼ工房	スコア 94

## ★ 個人戦

1位 浦邊 浩(あげぼのセンター A)	スコア 70
2位 久石高志(あげぼのセンター B)	スコア 91
3位 松田 孝(きよみずの会)	スコア 94

ホールインワンをされた方々

◎浦邊 浩(あげぼのセンター A)

◎野田理津子(佐賀みょうが塾)



## 参加された皆さんの感想

○何とか団体戦で優勝することができたので、一安心しました。来年は今年以上に参加できる作業所が増えることを願っております。運営本部の方々、お世話をいただきありがとうございました。

あけぼのセンター 坂井 修一



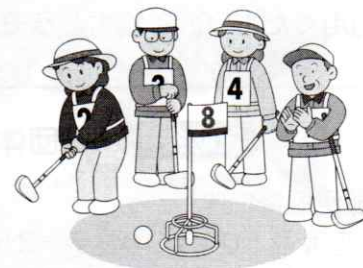
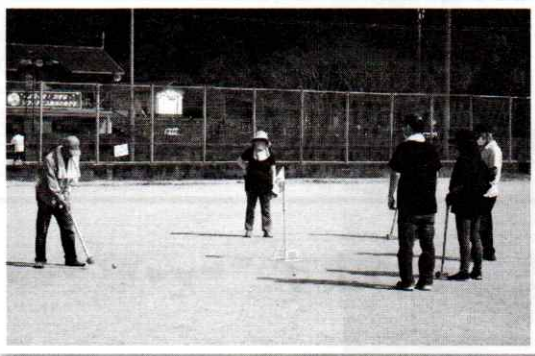
○団体戦でも優秀な結果で、個人戦でも1位という結果が取れて良かったです。また来年も行きたいと思っています。

あけぼのセンター 浦邊 浩



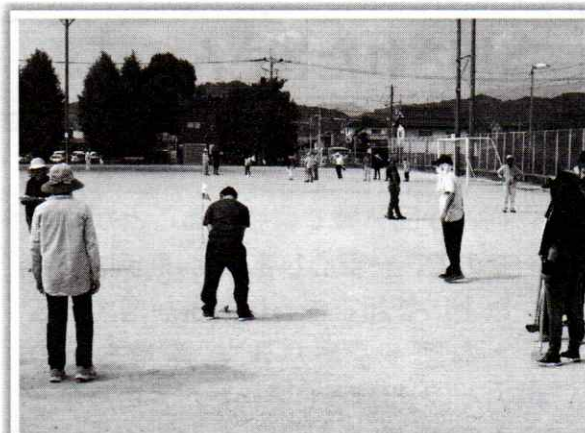
○とてもいい思い出になりました。ぼくは2回連続表彰台になるのは久しぶりです。来年は1位を取って、皆さんの期待にこたえられるようがんばります。仲間たちと一緒にプレーできて良かったです。

佐賀みょうが塾 森田 武仁



○はじめて参加できてよかったです。楽しかったです！  
佐賀みょうが塾 P.N シホリン

○グラウンドゴルフは緊張しましたが楽しくゴルフができて良かったです。またグラウンドゴルフをしたいです。  
佐賀みょうが塾 P.N はるな



○今年のグラウンドゴルフは、自分のチームがまさか2位を取るのびびっくりだったし、ホールインワンゲームでは1発で入れたので嬉しかったです！

佐賀みょうが塾 P.N おーちゃん



## 賛助会員を募集しています

こころの病気をもちながら頑張っているご本人と家族の応援団になってくださる賛助会員を募集しています。賛助会員にはこの「SAGA精連誌」を送付します。会費は当会の活動に大切にに使わせていただきます。皆様のご支援をおまちしています。手続きは下記の口座をご利用ください。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

**賛助会費** ◎団体：一口 10,000円 ◎個人：一口 3,000円

【郵便振替口座】

口座番号 01730-7-85175  
口座名 佐賀県精神保健福祉連合会

【銀行】佐賀銀行 唐津支店 普通預金

口座番号 1897535  
口座名義 佐賀県精神保健福祉連合会 会長 松田孝

令和6年度

# みんなねっと九州・沖縄ブロック家族会 精神保健福祉研修会 福岡大会

令和6年11月21日(木)～22日(金)の2日間にわたり福岡県中小企業振興センターにて開催されました。両日ともに会場は満席状態、懇親会では各県紹介の持ち時間が足りないくらいに(すみませんでした汗)大変盛り上がりました。

## 感想 研修会に参加して

この研修会は「未来をひらく ～これからの地域ケア」というテーマで、たかぎクリニック院長の高木俊介先生の基調講演から始まりました。その講演は、私たち精神障がい者の支援をしている医療、福祉関係者や家族にとっては、かなりショックな内容で、“絶望”という言葉まででてきました。しかしその本質は、“当事者主体の支援とは”との問いかけと感じました。

精神病患者は、“困っている社会(親を含む)が病院へ連れてきて、医者が病名をつけ、薬はただ患者を大人しくする”という現状を話されました。精神障害の当事者は、障害を抱えても、生きがいを作って、生きていくことが大切である事、当事者が何に悩み、どうゆう人生を歩んできて、どんな家族関係だったか、信頼できる人がいたのか、いい支援者に巡り合ってその人のおかげで立ち直っているかを見ないで、幻聴、妄想、混迷状態等の症状には「この薬」という対応しかしてこなかったのではないかな等の、これまでの医療や福祉の障がい者への対応への痛烈な“問いかけ”の内容でした。

後半の倉知先生の講演では、“当事者は監督、支援者はプレーヤー(チャールズラップ)”という言葉が引用され、支援の本質から現状等の解説をされました。

次の日は、これからの地域支援をテーマとしたシンポジウムが行われ、多職種が連携した重層的支援が必要であり、効果的であることがわかりました。医療と福祉が連携し、それぞれの立場から現状を伝え、精神障害があっても、よりよい人生が送れるような地域社会になればと思います。

今後社会は、精神障がい者が排除されない社会に変わり、さらに包容力のある地域社会になるには、私達支援者自身は、もっと柔軟に意識を変えなければならないと思いました。“目からウロコ”の時間でした。

DE・TE・KO・I 陣内 計江



# 福祉大会

2月1日(日)ほほえみ館4階視聴覚室にて開催。講師は西九州大学の黒田健康福祉学部長。来賓として佐賀県障害福祉課 田中課長、佐賀市保健福祉部 森部長をお招きした。参加者25名。講師の黒田先生は大阪で精神保健行政あるいは家族会との関りを多く持っておられる。

講演の内容は下記3点であった。

## ○日本の精神保健医療福祉の特徴

歴史的に収容政策が近年まで行われ、入院者数減の努力が行われているものの今では世界で最も精神科病床数が多い国になっている。また、精神障がい者のノーマライゼーションが最も遅れた国ともいわれている。

## ○新たな動向と施策

2013年 精神保健福祉法改正、障がい者差別解消法制定。

2014年 障がい者権利条約公布

## ○家族会への期待

これまでも統合失調症への名称変更に家族会は大きな役割を果たした。

当事者・家族の会は重要で、新しい見方・考え方を学ぶとともに支え合いや分かち合いを行う。と同時に当事者・家族のために社会を変えていく運動も重要になる。

講演の後20分程質問の時間を設けたが、数名の参加者から発言があり黒田先生はいずれにも丁寧に答えておられた。特に当会の民生委員への啓発活動には興味を持たれたようであった。また、田中課長からは民生委員(佐賀市など)への啓発の場を早く提供したいとの嬉しい申し出もいただいた。

黒田先生と当会は年々交流を深めており、会議(佐賀県障がい者施策推進委員会)などのご一緒することも時々ある。その会議中の発言では現在の精神科医療に対し意見を積極的に発信しておられる。これからも西九州大学の学生を含め交流を続けて行きたいと思う。

以上 福祉大会の概要を記しました。(文責 松田孝)



月刊 みんなねっと

12  
2024



特集『家族当事者研究』と対話

全国精神保健福祉会連合会

## 「月刊みんなねっと」を購読しませんか？

「月刊みんなねっと」は賛助会費をお振込みいただくと毎月お手元に届きます。個人でお申し込みの場合は個別賛助会員(年間3,600円)、2名以上でお取りいただける方は複数賛助会員(年間3,600円×人数分)、家族会団体賛助会員(会費についてはお問い合わせください)となります。

【お電話またはFAXでのご入会】

Tel:03-5941-6345 / Fax:03-5941-6347

※お掛け間違いのないよう、お願いいたします。

【郵便振込先】 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会  
口座番号 00130-0-338317



SAGA精連に所属する8つの事業所会員を紹介します!

## 事業所会員だより

## NPO 法人あけぼのセンター

NPO 法人あけぼのセンターは、鳥栖・三養基地域の家族会(あけぼの会)が立ち上げた作業所が、B型事業所に発展したものです。そのため、あけぼの会の事務局は、あけぼのセンター内に置いています。統合失調症など主に精神障害者の方が利用されています。利用者は現在、男性24名、女性8名、年齢層は幅広く、26歳から76歳、平均年齢は50歳となっています。ゴム加工、箱の組み立て、ラベル貼りなど軽作業を主体とした事業を行っています。

表通りから細い路地を入った場所で、車の騒音もなく周囲は木々に囲まれ、鳥のさえずりが聞こえ四季の変化が楽しめる、日中活動の場として最適のスポットにあります。

居心地が良い、落ち着くなど精神安定効果を伝える利用者も多くいます。すぐ隣には、鳥栖の風物詩「鳥栖祇園山笠」でも知られる八坂神社があります。八坂神社境内を散歩したり、自身の病気回復を願ってお参りする利用者もいます。

家族会活動は、役員を中心に研修会を開催するほか、SAGA精連が主催する各種イベントや九州・沖縄大会などに参加しています。全国各地の地域家族会も高齢化の波が押し寄せ、会員の減少に歯止めがかからないと聞いています。家族会活動を維持するには、まとめ役が必要で一定の事務も伴います。その担い手がいないのです。

その点、あけぼの会では事業所が事務を引き受けていますので、家族会員は、会員同士の懇談会や研修会など各種イベントに参加すればよく、負担が軽いため継続できていると考えています。

あけぼのセンターは、地域で暮らす障害者の支援だけでなく、鳥栖・三養基地域の家族会活動にとっても、なくてはならない事業所です。長年、あけぼのセンターを利用している方々のためにも、心安らく居場所としてこの地でずっと続けていけたらと思っています。

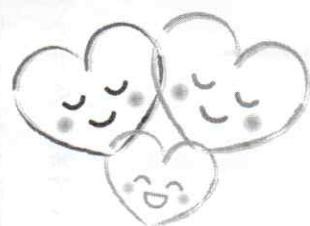
### NPO 法人あけぼのセンター

鳥栖市吉野町 676-2

TEL : 0942-84-0706



作業風景



八坂神社



スタッフ

いつわりの別れ

なぜに人は そうまでして 生きるのか

その謎を解きたい

死ねないから

ただ生きるのでは 生きている意味がない

そこまで思って 優しさまで追求してしまう

人間の何処に 優しさが潜んでいるのか

どういう優しさを持って 別れを選ぶのか など

やけに必死になって 私は愛を追ってしまう

ある人は言っていた ここを去っていく前に

「これでも包容力はあるからね」と

もしかしたらそれが 精一杯の優しさだったのかもしれない

小楠 淳子

願い

楽しい時間を 過ごしたい

笑顔でいたい

友と心を 通わせたい

想いは募るばかり

優しい雨は しとしとと

荒れた街を洗っている

どうか

平和で穏やかな街に なりますように

天は私たちを見守っている

あの激しく恐ろしい 戦争や災害が

止んでほしいと 祈り続ける

神様は ようやく 来てくれた

小楠 淳子



私の船乗り時代の経験を時々皆さんにお知らせしたいと思います。見ていただければ幸甚です。ちなみに私の職名は機関士、航海関係の記述は航海士ではないので不正確な部分はお詫びします。

### 外国人との混乗は難しい(韓国編)!

昭和の終わり頃から日本の船会社は少数人数で運航する近代化船から外国人との混乗に舵を切り、見る間に日本人船員は少なくなり、韓国・中国・フィリピン人など各国の契約船員が増えて行きました。形態としては幹部日本人(2～8名)と外国人(20名内外)で船を運航します。その当時1等機関士であった私の初めての混乗は日本人5名と韓国人20名の10万トンのタンカー。徳山で乗船しドアを開けたときに外部から来た人間だけが分るニンニク臭がしたのを思い出します。機関部では機関長と一等機関士の私が日本人で後は部下の韓国人船員が7名でした。会話はと言えば日本語、英語、韓国語が入り混じりますが、仕事では朝私が二等機関士に英語で指示を伝え、それを彼が韓国語で他の人に伝えるという手順でした。ただ、この私の指示が皆に伝わるのに多大な時間を要し、また韓国語だが毎日激しい口調での議論が続きました。私は1人蚊帳の外で孤独を感じ「どうした?」と聞いても「仕事のミーティングです。」との答えが返ってくるのみでした!!

韓国料理はコックさんがキムチを大量に作っているのですが、辛すぎてすぐにギブアップ。日本人用にとマイルドな味にしてもらいました。また、全般に昼はボリュームがあり、夕食は本当の一汁一菜であり寂しい食事となります。そこで、私は日本人用に臨時コックさんを買って出て、日本人で買い出した食材でほぼ毎日そば、ラーメン、野菜サラダ、刺身(釣った魚)、魚料理、肉料理等少ないレパートリですが殆ど毎日作っていました。(夕食は軽く済ませ、夜8時からの私の料理がメインに?!)

それでも船は何とか目的地、中国、マレーシア、インドネシア、シンガポール、日本などを問題なく航海を続けたのですが事件が2件。

1件目 乗組員のけんか：全羅北道と全羅南道との争い勃発。乗組員の出身地をめぐっての複数人での争い。けんかしているとの連絡を深夜に受け仲裁に入るも大酒を飲んでの騒ぎはなかなか収まらず、ついにはある人が投げたピンが相手の顔に当たり流血の惨事に!

やっと仲裁をしたもののけが人の手当は日本人の役目と踏んだり蹴ったりの夜を過ごしました。(その間も船は目的地に向かい航海を続けています。)

2件目 朴君の悩み：ある日部下の朴君が通訳の操機長を連れ私の部屋にやって来ました。そして親戚の叔父さんが船を降りてくれと言っている、についてはここで船を下ろしてほしい(船は名古屋に停泊中、出港間際であった)と言い出しました。私は「冗談じゃない、君も分かるように下船したいからといってすぐに下船できるものじゃない。手順をふんでくれ。通常休暇願いを1ヶ月前には出さなければいけない」と伝えるとその場で彼は「アイゴー!!」と言って大泣きを始めました。およそ30分も泣いたところで部屋に帰ってもらったのですが、彼はそれからはストライキのように自室に籠り一切仕事にも出て来なくなりました。やむなく本船船長より船会社に連絡し、次の徳山港で彼は降りてもらおう事になりました。問題のある下船であり、彼は二度とわが社の船には乗れない事になるのですが。

2件とも日本人には決してない事件なので大変びっくりしたものでした。

一時盛んであった韓国人との混乗もこういったふうで、何かとトラブルが多く次第にフィリピン人、インド人などとのペアリングが増えて行きました!

## ■ 令和6年度 県精連賛助会員・賛助費



皆さまのご理解ご協力に心より感謝申し上げます

		(敬称略)
1. 江島 佐知子 様	3,000円	10. やまと心のクリニック 様 10,000円
2. 友朋会 様	10,000円	11. 神野病院 様 10,000円
3. 多布施クリニック 様	10,000円	12. ユニカレさが 様 10,000円
4. 悠心堂クリニック 様	10,000円	13. 土井 敏行 様 3,000円
5. たじまメンタルクリニック 様	10,000円	14. 中央軒 様 10,000円
6. 睦 様	10,000円	15. 清友病院 様 10,000円
7. 藤田歯科医院 様	10,000円	16. 白石保養院 様 10,000円
8. 鮫島 隆晃 様	5,000円	17. 織田病院 様 10,000円
9. さめじま病院 様	10,000円	18. 早津江病院 様 10,000円



### 家族相談しています

場 所	佐賀県精神保健福祉連合会 (SAGA精連)事務局
Tel・Fax	0952-72-4797
開催日時	毎週月曜日 10:00~12:00 (尚、祝日・お盆・年末年始はお休みです)
対 象 者	精神疾患を抱える人の家族

発 行 佐賀県精神保健福祉連合会  
事務局 小城市小城町178-9 〒845-0001  
TEL・FAX 0952 (72) 4797  
E-mail : kenseiren\_saga@yahoo.co.jp  
HP : <https://sagaseiren.com>

